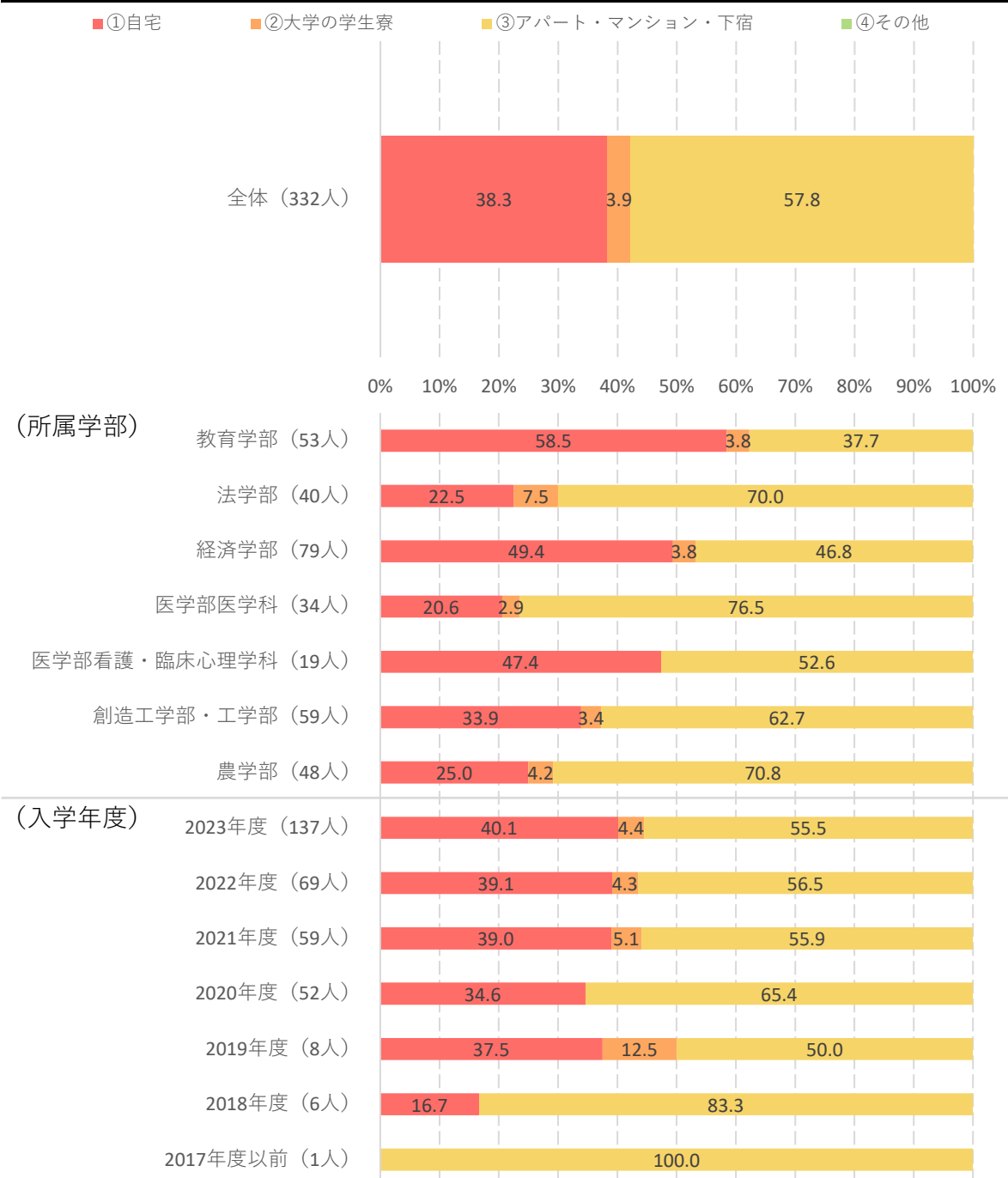


### 3 経済状況

#### (1) 住居の形態

問7 あなたが現在住んでいるのは次のうちどれですか。

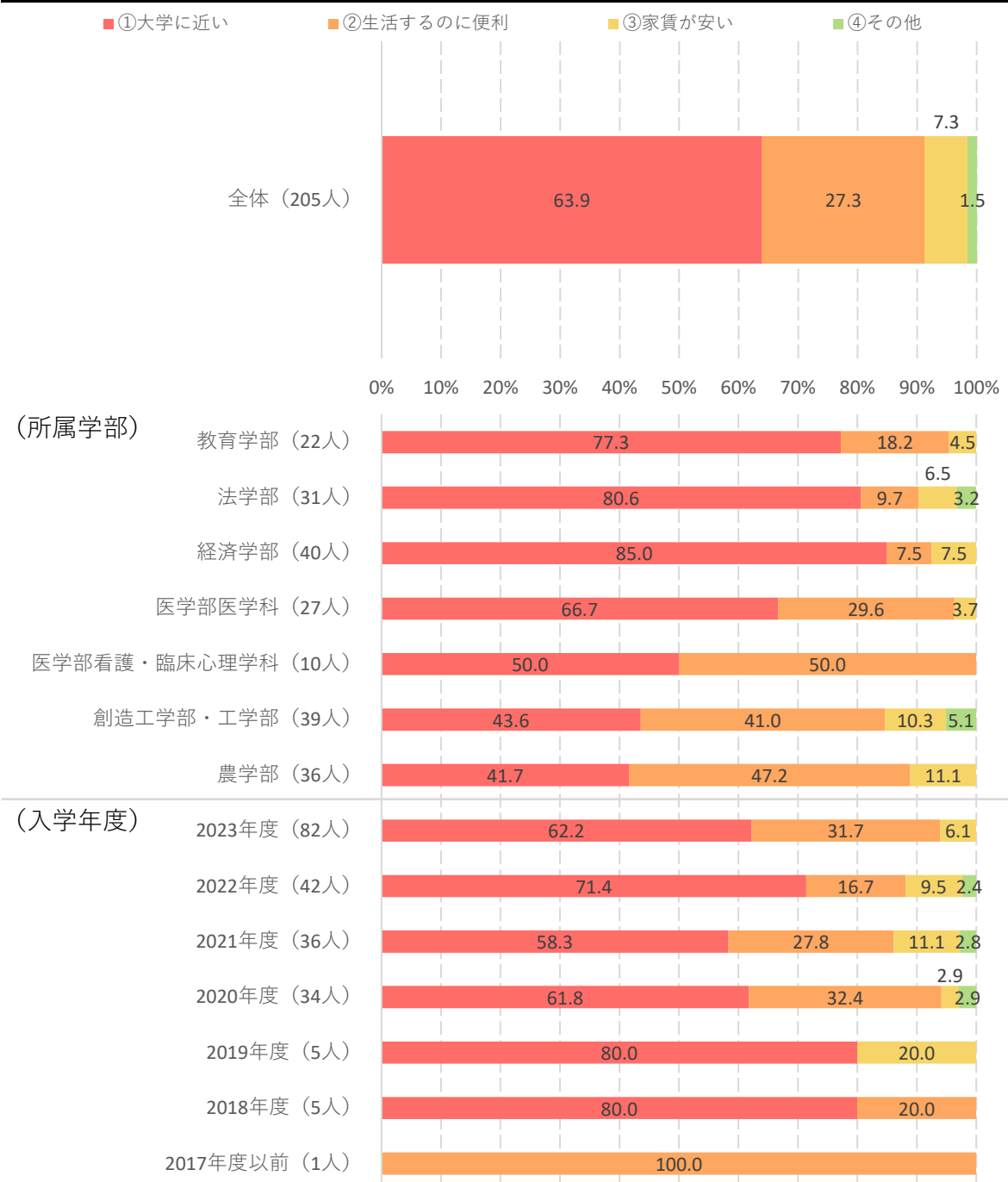
全体の約6割が下宿生、約4割が自宅生であるのは、前回調査と変わりません。所属学部別に見て自宅生が際立って多いのが教育学部です。自宅生が少ないのは法学部と医学部医学科ですが、法学部の自宅生が前回調査の31.1%から22.5%に下がり、医学部医学科の割合に近づきました。



(2) 住居を選んだ理由

問8 現在の住居を選んだ理由は何ですか。

前回調査では、大学に近いという「距離」を理由に選んだ学生が52%程度でしたが、今回は約64%に上昇しました。「生活するのに便利」を選択した学生は前回調査の28.7%から27.3%とあまり変わらず、「家賃が安い」を選択した学生は前回調査の16.2%から7.3%に下がりました。所属学部別に見ると、教育学部、法学部、経済学部、医学部医学科において「距離」を選んだ学生が前回に比べて10%以上上昇しているのに対し、医学部看護・臨床心理学科、創造工学部・工学部、農学部においてはあまり変わりません。



問9 問8で「4. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

教育学部

回答なし

法学部

回答なし

経済学部

回答なし

医学部医学科

回答なし

医学部看護・臨床心理学科

回答なし

創造工・工学部

・広い  
・家具家電がついていた

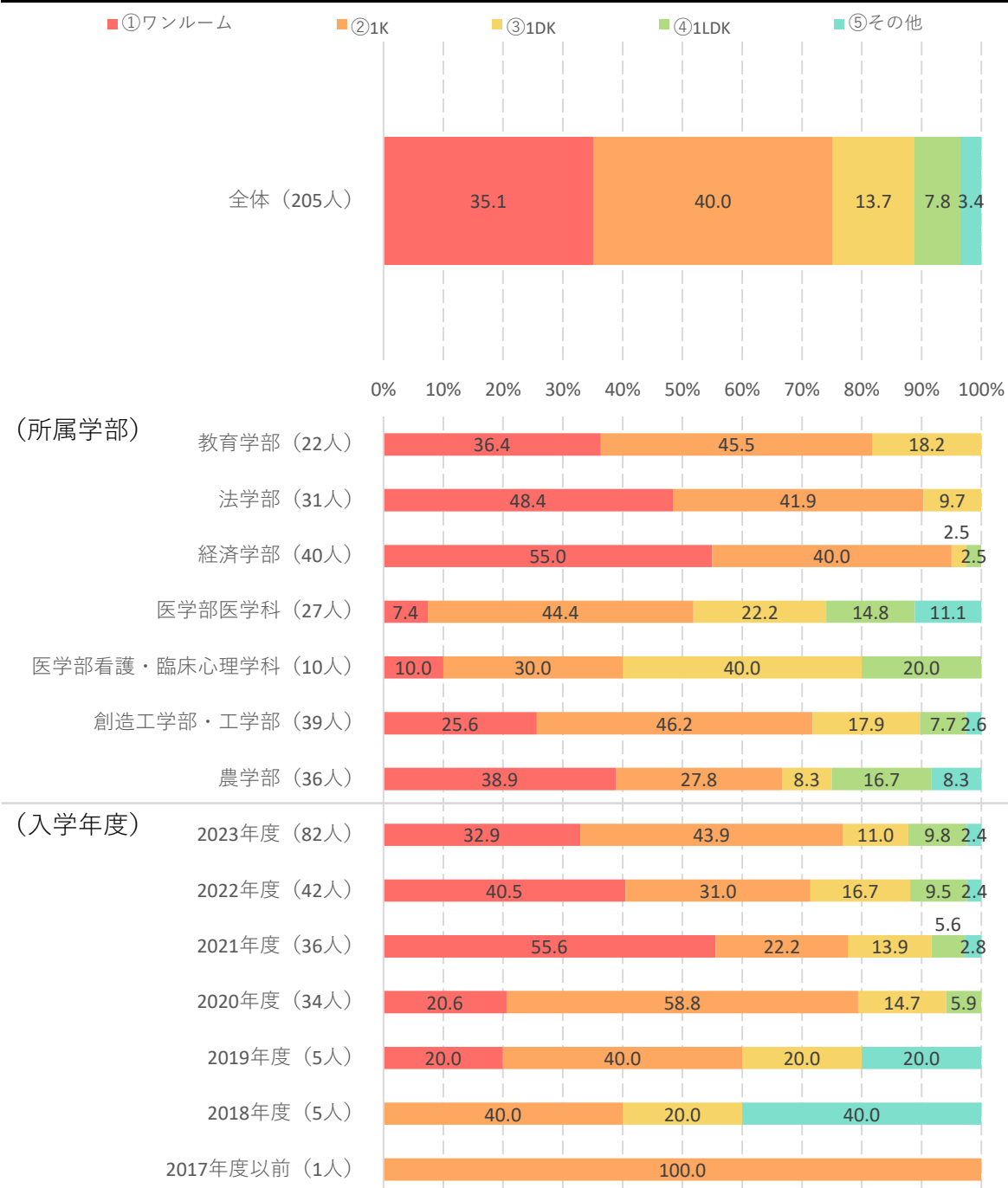
農学部

回答なし

(3) 部屋の間取り

問10 現在の住居の部屋の間取りはどのタイプですか。

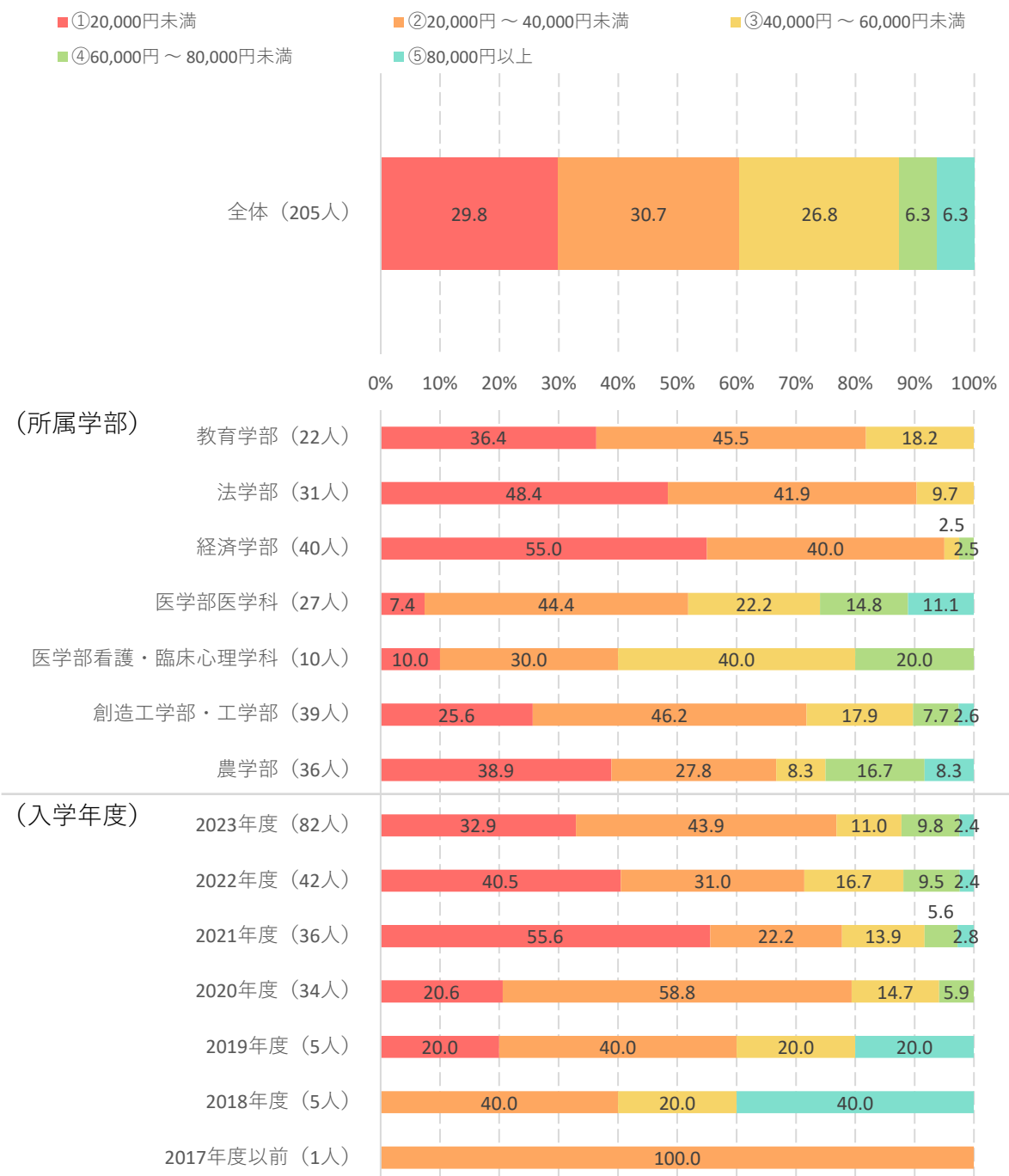
全体ではワンルームと1Kが7割を超えています。前回調査よりも1Kの割合が約8%上がりました。所属学部別に見ると、経済学部のワンルーム率が10%以上あがった一方で、医学部医学科のワンルーム率は約24%から約7%に急降下しました。医学部医学科は1K以上が90%を超えていると見られます(ただし、調査人数が半減しています)。入学年度別にみると、ワンルームと1Kの占める割合が前回調査の7割から8割に近づいているようにみえます。



(4) 1ヶ月の仕送り額

問11 あなたの仕送り額（家賃を除く）は、いくらですか。

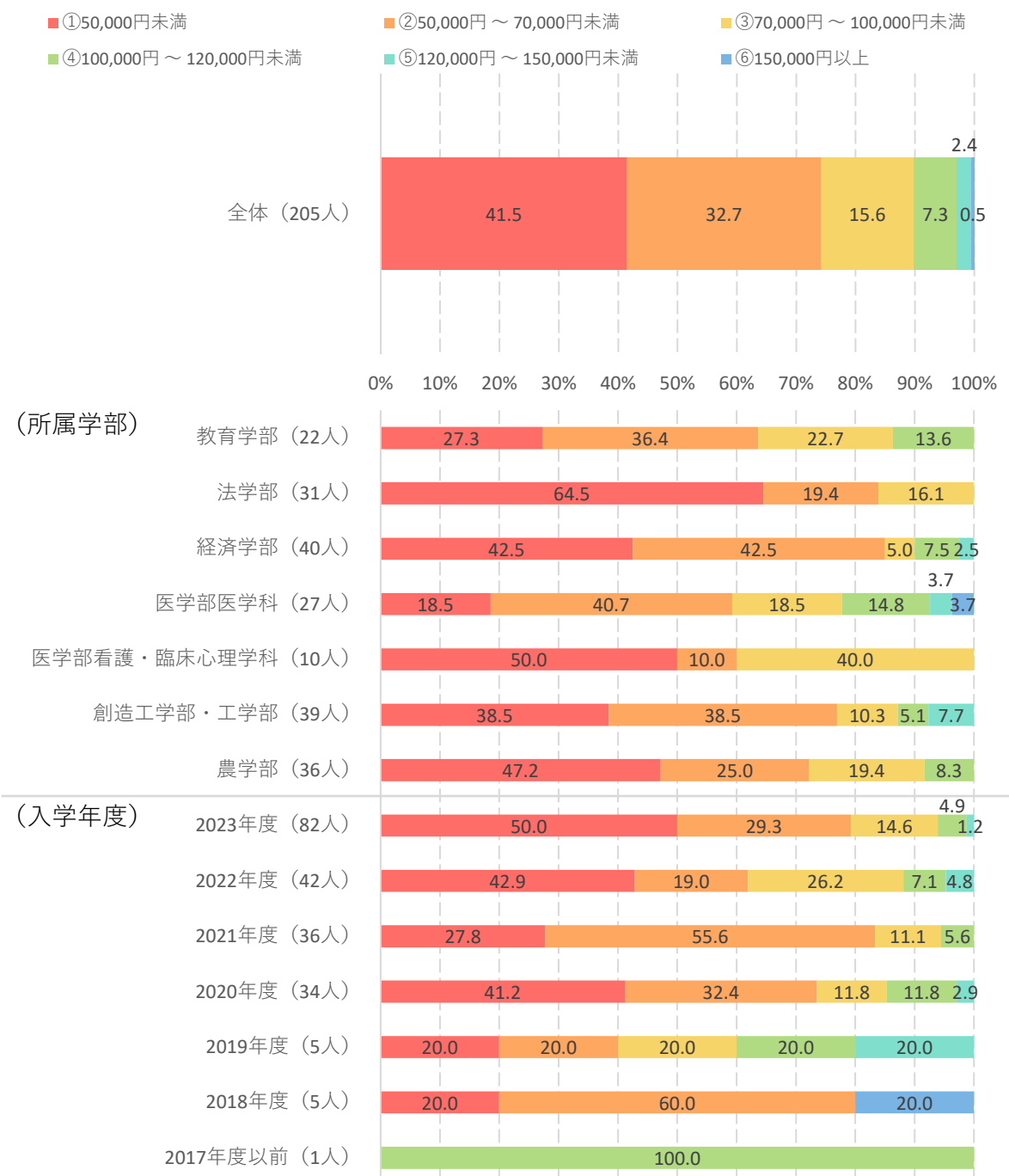
4万円未満が全体の6割、6万円以上がおよそ1割であるのは、前回調査と変わりません。所属学部別に見ると、教育学部・法学部・経済学部の仕送り額がやや低く、医学部が高い傾向にあるようです。しかし医学部医学科は、前回調査に比べて6万円以上の仕送りを受ける学生がやや減少し、4万円未満の学生が3割から5割に上昇しています。入学年度別に見ると、2021年度入学者の2万円未満の割合が際立っています。



(5) 1ヶ月の支出額

問12 あなたの最近1年間における1ヶ月の支出の平均額（授業料を除く）はいくらですか。

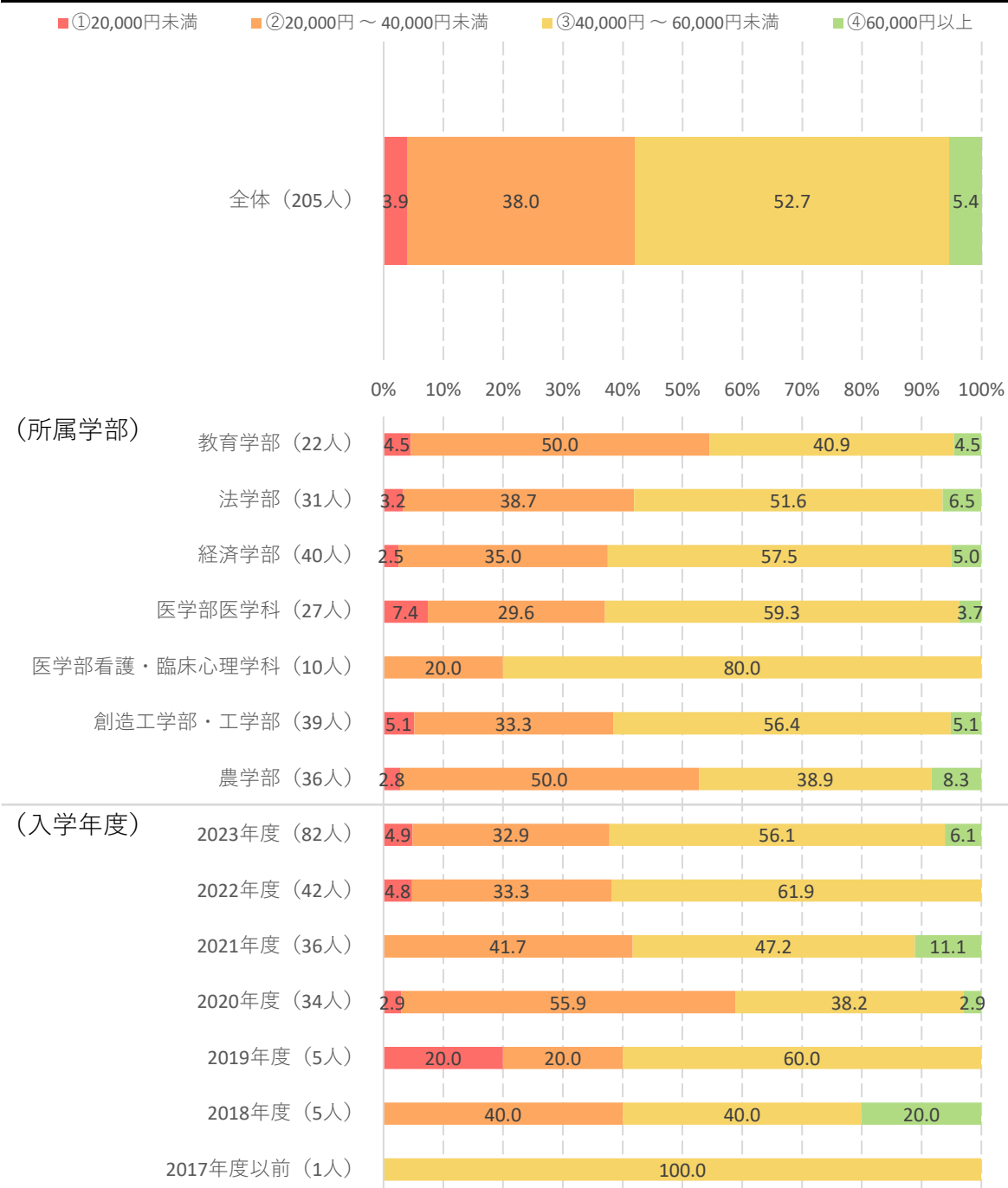
5万円未満が全体の4割程度を占めており、10万円を超える学生は1割程度です。所属学部別に見ると、医学部医学科の学生に支出が多く、2割程度の学生が10万以上となっています。法学部学生の5万未満の支出の割合が、前回調査の46.7%から64.5%に上昇しているのが注目されます。前回調査では学年が上がるにつれて支出額が上がる傾向が明らかでしたが、今回はそうでもないようです。



(6) 1ヶ月の住居費

問13 あなたの1ヶ月の住居費はいくらですか。

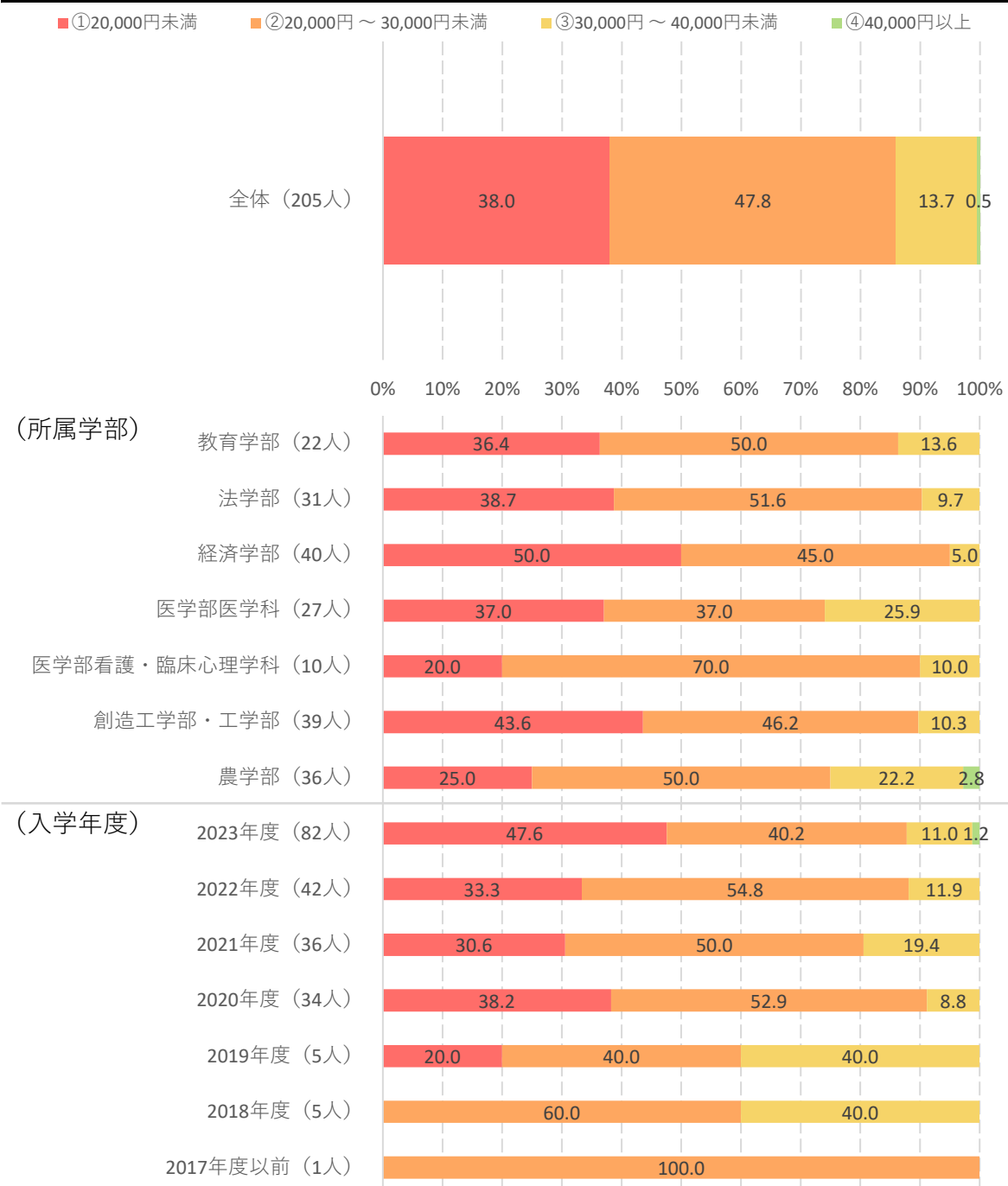
全体の4割程度が4万円未満で、4万以上の割合が前回調査よりもやや増えています。前回調査では4万円以上が6割を超える学部は医学部と創造工学部・工学部でしたが、今回は経済学部も6割を超え、法学部も6割に近づいています。教育学部も前回調査よりも10%程度上昇しました。学部ごとの違いがあまりなくなっている印象です。入学年度別に見ると、4万円未満の割合が高いのが2020年度入学の学生です。



(7) 1ヶ月の食費

問14 あなたの最近1年間における1ヶ月の食費の平均額はいくらですか。

食費が2万円未満と回答している学生が40%近くおり、また3万円未満の学生が85%程度なのは前回調査と変わりません。所属学部別でみると、医学部のみが3万円以上の学生が20%を超えていた前回調査と比べて、農学部がその水準に近づいていることがわかります。学年別で見ると、1年生にのみ2万円未満の学生が半数近くいることがわかります。

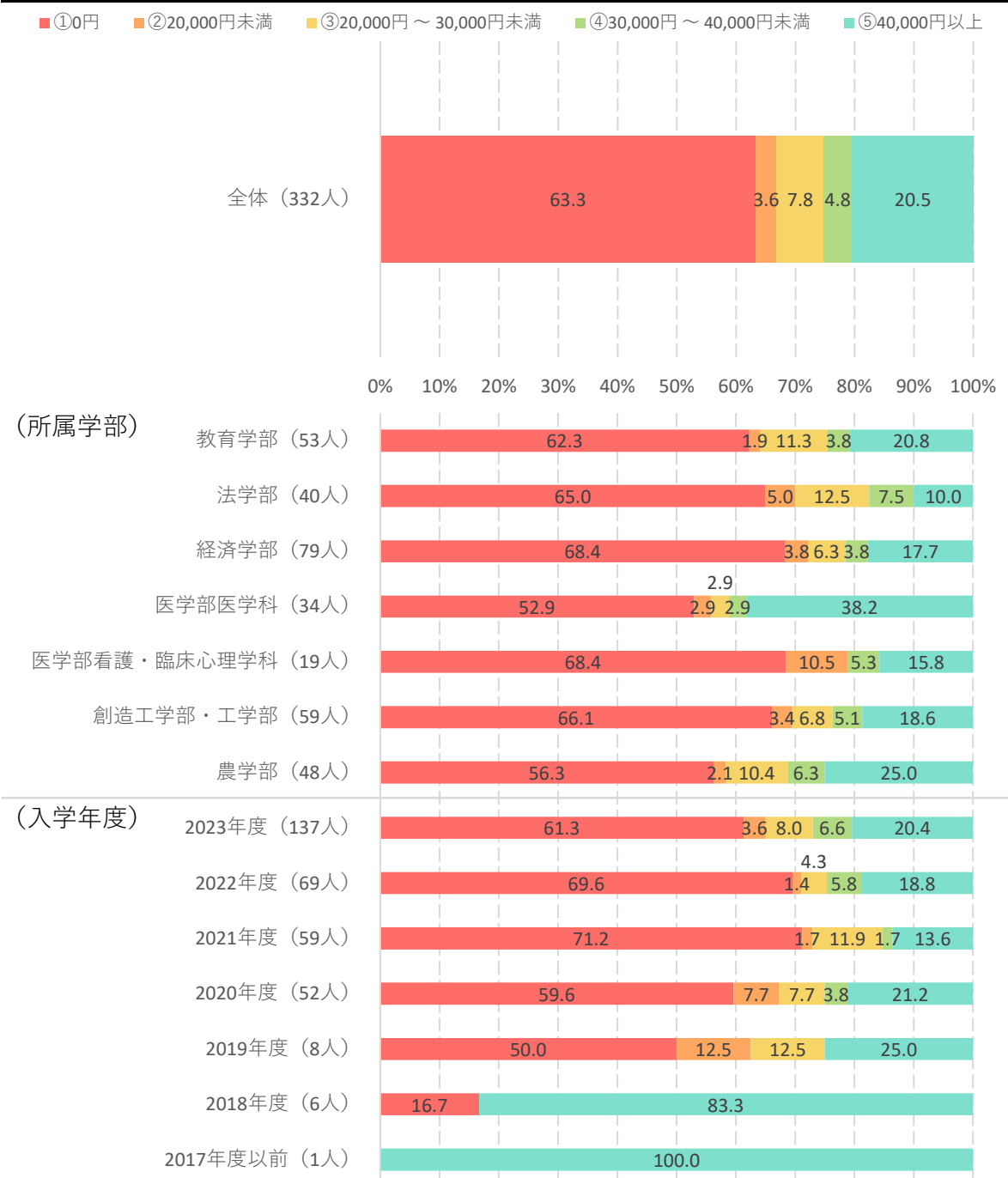




(8) 1ヶ月の奨学金

問15 あなたの1ヶ月の奨学金はいくらですか。

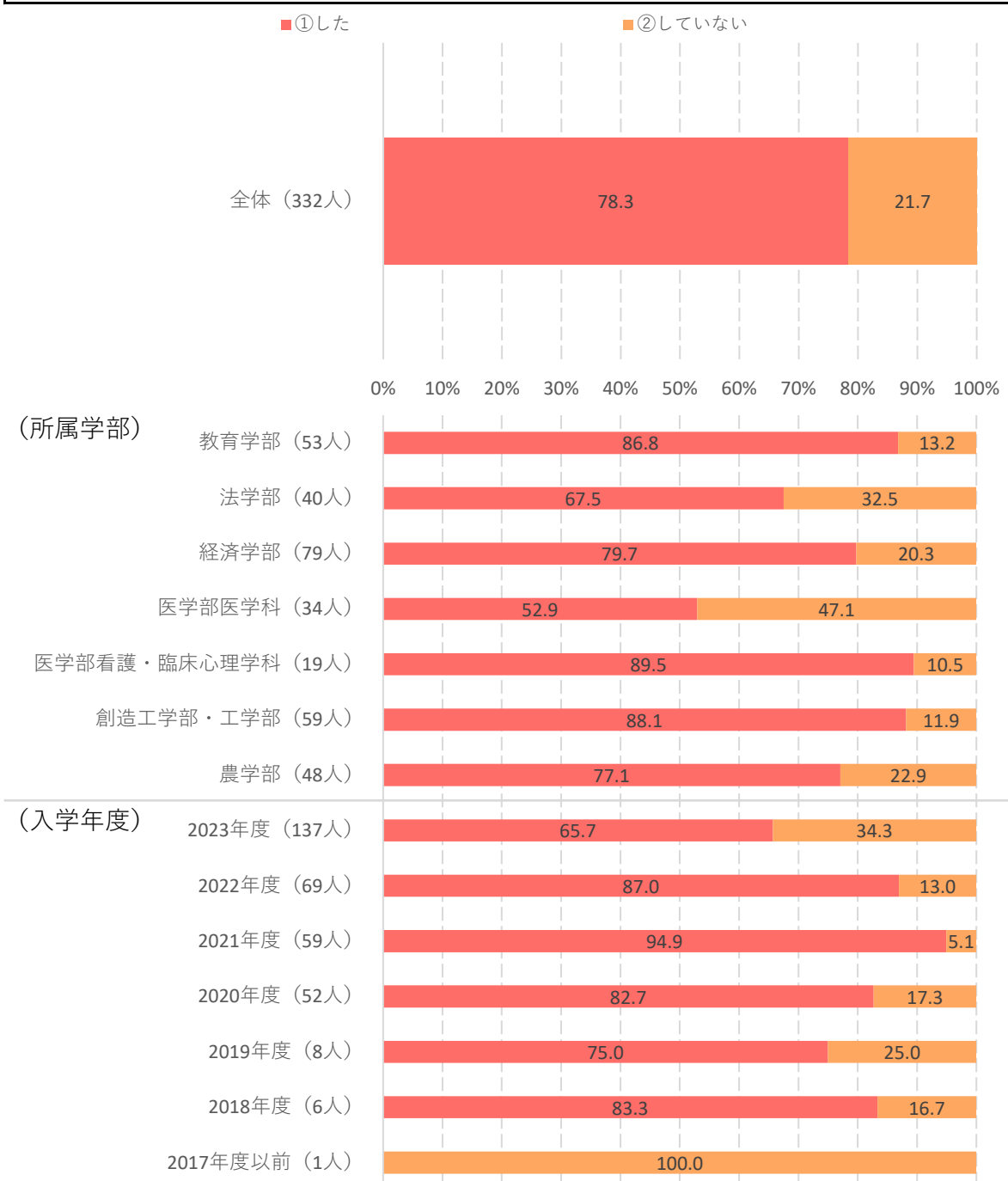
全体では奨学金非受給者の割合は約63%であり、経済学部、医学部看護・臨床心理学科、創造工学部・工学部などにおいてその割合が高くなっています。また、過年度生を除けば、高学年ほど奨学金受給者の割合は高くなる傾向にあります。奨学金受給者をみると、全体の約20%程度が、毎月40,000円以上の奨学金を受給しています。



(9) 過去1年間のアルバイト経験

問16 あなたは最近1年間にアルバイトをしましたか。

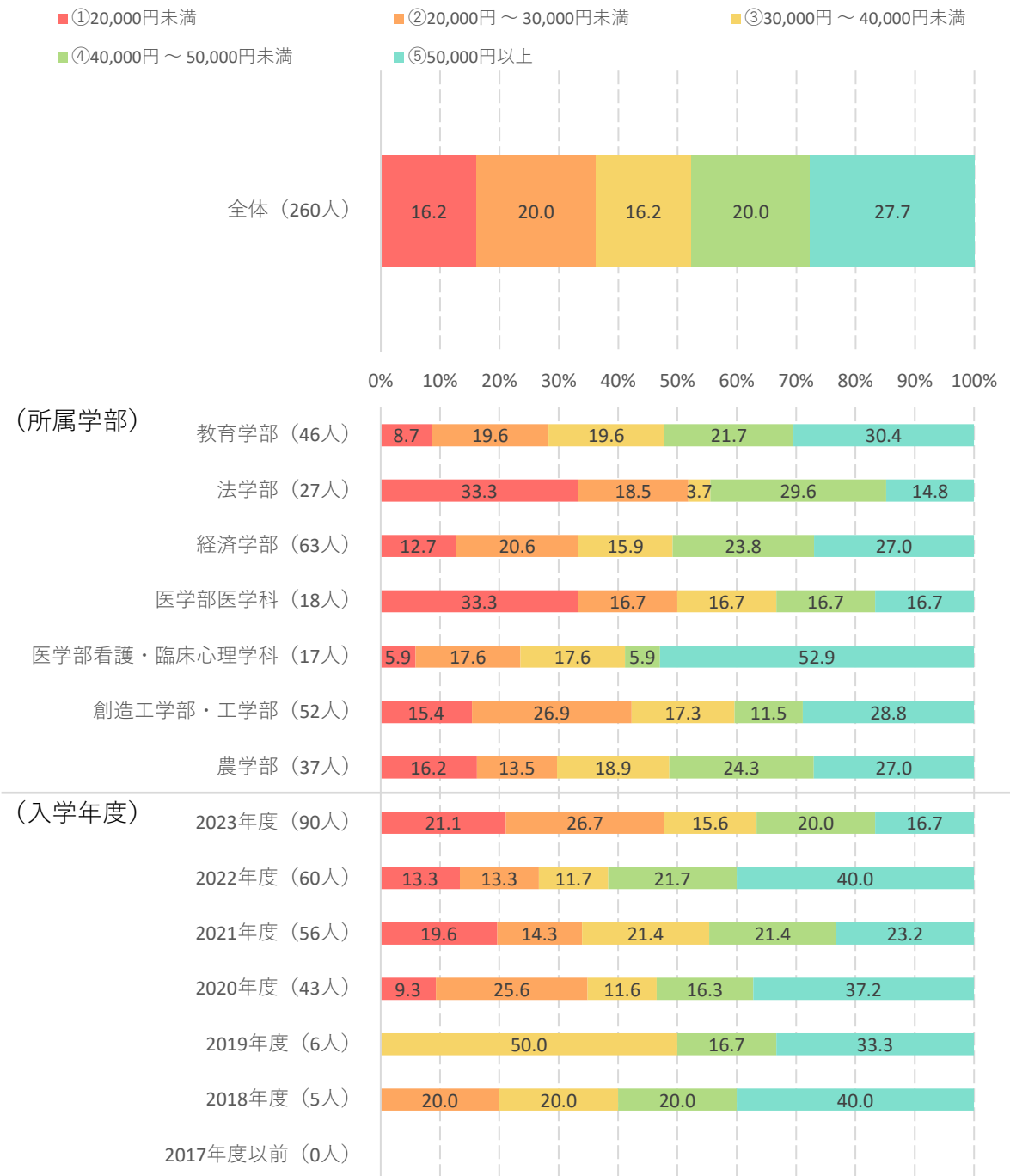
全体では、78%ほどが最近1年間にアルバイトを経験しています。特に医学部看護・臨床心理学科においてアルバイト経験者率が高く（89.5%）、医学部医学科がもっとも低い（52.9%）傾向が見られます。また、2023年度生、つまり1年生におけるアルバイト経験者が約65%と低いものの、過年度生を除く2年生以降は75%～95%程度がアルバイト経験があると回答しています。



(10) 1ヶ月のアルバイト収入

問17 あなたの1ヶ月のアルバイト収入の平均額はいくらですか。

全体の30%程度が、アルバイトにより月に50,000円以上の収入を得ているようです。所属学部別にみると、月50,000円以上の収入を得ている割合は、医学部看護・臨床心理学科の学生が最も多く、52.9%となっています。問18との相関がうかがわれます。入学年度別にみると、2年生、つまり2022年度生が、「月50,000円以上の収入がある」と答えた方の割合が最も高くなっています。

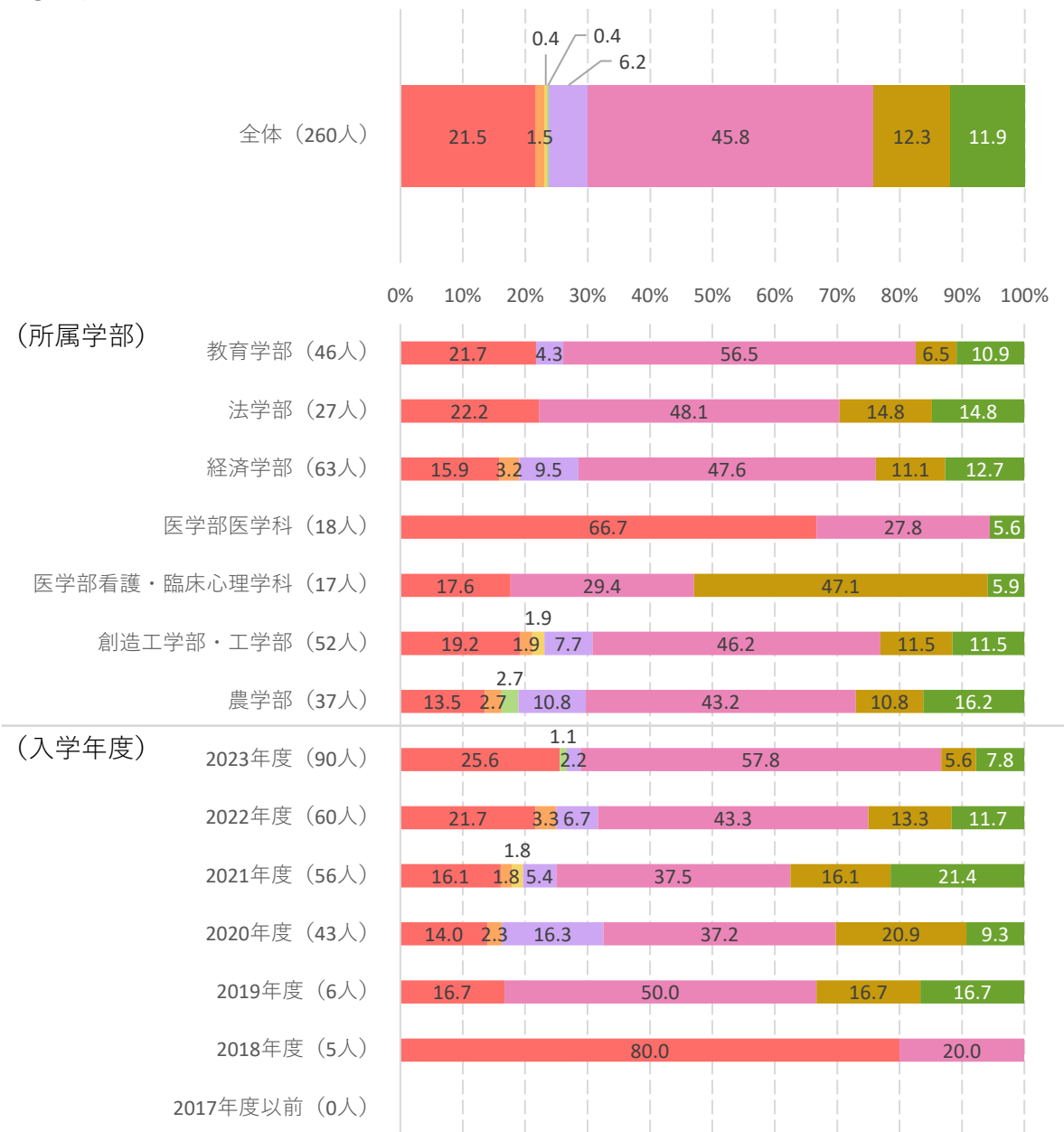


(11) アルバイトの主な職種

問18 あなたが主に従事したアルバイトは何ですか。

アルバイトの主な職種として飲食店の店員（45.8%）が最も多く、次いで家庭教師・塾講師（21.5%）、販売員（12.3%）となっています。前回調査とほぼ同様の傾向といえます。医学部医学科では70%程度の学生が家庭教師・塾講師のアルバイトに従事しています。また、2023年度生、1年生においても家庭教師・塾講師のアルバイトに従事している割合が比較的高い傾向にあります。

- ①家庭教師・塾講師
- ②事務員
- ③工場・建築現場の作業員
- ④配達員
- ⑤清掃作業員
- ⑥警備員
- ⑦販売員
- ⑧飲食店の店員
- ⑨スーパー・コンビニエンスストアの店員
- ⑩その他



(12) アルバイト収入の主な使途

問19 アルバイト収入の主な使途は何ですか。

全体的に生活費、教養・娯楽費への支出が多い傾向があります。それぞれ、アルバイト収入の大半を占めています。入学年度別にみると、学年が上がるにつれ、生活費への支出割合が大きくなる傾向があり、2020年度生、つまり4年次には生活費が約50%に達しています（過年度生除く）。

